

「10年にわたるアイヌ民族への差別・ヘイト問題の 報道活動と行政を動かした実績」が、 第63回ギャラクシー賞 報道活動部門で 選奨を受賞

HBC 北海道放送が放送した「アイヌ民族への差別・ヘイト問題」に関する一連の報道(報道部・山崎裕侍デスク、石栗教行デスク(HBC フレックス)、中原達也記者、磯貝拓記者、馬場佑里香記者)が、第63回(2025年度)ギャラクシー賞 報道活動部門で選奨を受賞しました。

なお、HBC が選奨を受賞するのは、第59回ギャラクシー賞(2022年度)テレビ部門「ネアンデルタール人は核の夢を見るか～“核のごみ”と科学と民主主義～」以来です。

6/1(月)に行われた贈賞式には、報道部・山崎裕侍デスクが代表して参加し、賞状が贈られました。

【講評】

アイヌ民族への差別・ヘイト問題に対し、10年にわたり正面から向き合い続けた姿勢を高く評価します。同問題に「触れない空気」に抗い、専門家と連携したファクトチェックや調査報道は、行政の鈍い対応に変化を引き出しました。さらに、若手記者の育成や、外部からの執拗な圧力に対し、会社一丸となって記者を守り抜く気概と組織体制は、ジャーナリズムの自由を体現する模範です。

また、以下の3作品が奨励賞を受賞しています。

- ・クマと民主主義～小さな村が見つけたヒント～(デジタル戦略部・幾島奈央さん)
- ・ドキュメンタリー「解放区」罪と償い～事件を裁いた先に～(報道部・三栗谷皓我記者)
- ・北海道 fact「ロバ紀行～元新聞記者と相棒クサツネの900km～」(報道部・田中未来記者)

NPO 法人放送批判懇談会 HP はこちら(<https://www.houkon.jp/galaxy-award/>)



■お問い合わせ HBC北海道放送 総務部(広報担当)
TEL:011-232-5821(平日 10:00～17:30)

もっと世界が憧れる北海道を、実現する。